

希望を育み、 有明海再生・創生に どのように取り組むべきか

～歴史に学び、現状を冷静かつ的確に把握し、未来志向で考える～

有明海では漁獲量がピークであった1980年以前を豊穡の海と呼ばれることが多いが、その時から35年が、そして社会問題となったノリの大規模色落ちから20年近くが経過しています。その間、諫早湾干拓事業をめぐる争いが裁判にまで発展し、混迷が続いています。これまでの社会的関心事は諫早湾干拓事業を意識した原因究明に終始し、有明海の環境の変化、水産資源への影響には多くの要因が絡んでいるものの、再生にあたってその全体像について正しく認識されるまでには至っていません。

漁家数が減少し、漁業者の高齢化も進み、そして有明海沿岸域の経済活動が低迷する中で、有明海の環境を改善し、漁業資源の回復、安定、そして沿岸域の活性化を同時に取り組むことが望まれます。地方創生の有明海版、『有明海創生』の取り組みが期待されることです。

このためには、国、県、市町の行政、漁業者、研究者、NPO、NGO等の市民が現状認識を的確に行い、これから有明海再生・創生に向けて何を行うべきか、そしてそれぞれが連携・協調していくことでどのような相乗効果が生まれるかなど、未来志向で考え、実行に移すことが求められています。

会場：**ほほえみ館** (佐賀市保健福祉会館)
住所：佐賀市兵庫北三丁目8番36号
日時：平成**29**年**2**月**11**日
9時30分より12時まで
入場料：**無料**



第1部 基調講演

地域の創生と希望

東京大学社会科学研究所 教授 **玄田 有史**

第2部 パネルディスカッション

『希望を育み、有明海再生・創生にどのように取り組むべきか』

「調査研究」「広域行政」「地域行政」「漁業」「NPO、NGO活動」のそれぞれの分野からパネラーとして参加をいただき、活動、取り組みの実態(現状と課題)、今後の展開について話題提供をいただき、総合討論を行う。

▶ コーディネーター

楠田 哲也 (有明海再生機構理事長、九州大学名誉教授)

▶ パネラー (五十音順)

植木 光治 (元大川市長) 地域行政
川上 義幸 (元佐賀県副知事) 広域行政
小松 利光 (九州大学名誉教授) 調査研究
田上 卓治 (佐賀県有明海漁業協同組合専務理事) ... 漁業
古川 尋美 (有明海ぐるりんネット) NPO活動